



あけぼの

第48号 2022. 3. 1
宇和特別支援学校
(知的障がい部門)
図書館発行

さて、現代はインターネットが普及して、情報が瞬時に飛び込んでくる便利な時代であるが、皆さんは、休日のひとときや就寝前などに『好きな本』とともに豊かな時間を過ごしているだろうか。私は、小学高学年の頃に『シャーロックホームズシリーズ』を親から買っても

らったことがきっかけで推理小説が好きになった。高校時代は部活動の忙しさにかまけて読書少年にはなろうとはしなかったのだが、社会人となって、心と時間に少し余裕ができた頃から読書への思いが再燃した。内田康夫氏の浅見光彦シリーズや西村京太郎氏のトラベルミステリーは、ほぼ全タイトルを読破したくらいである。他には、スポーツ選手や指導者の人生論・名言集などに触れる機会が多かったが、今まで他のジャンルにほとんど手を出したことはなかった。そんな私にある偶然が訪れる。先日ふと、「しばらく本屋さんへ行っていないな。」と思い、本屋さんに向いてみた。そのとき何気んに手にした本が「プログラミングをはじめよう(池澤あやか著)」であった。

さあ、お宝を探しに図書館や本屋さんに出かけてみよう。きっと、人生を豊かにする本に出合えるに違いない。



一九八八年、千葉県の船橋学園女子高校(現 東葉高等学校)で、『朝の読書』が始まり、愛媛では二〇〇〇年前後から普及した。



校長 井上伸二

「お宝探し」

朝の読書の四原則は：

- 『一 みんなでする』
- 『二 好きな本でよい』
- 『三 毎日読む』
- 『四 ただ読むだけ』

感想文を書くこともなければ、難しい本を読む必要もない。好きな本をただ読むだけ。たったこれだけである。そんな手軽さから現在でも小中高の多くの学校で『朝の読書』が行われている。ある専門家の分析によれば、この『朝の読書』によって、若者の活字離れに歯止めがかかっているとのことである。

私は、もともとプログラミングに興味があったわけではなく、むしろ、自分には無理だろうと決めつけて避けていた分野であったので本を元に戻そうかとも思ったが、これも何かの縁だと思って読んでみることにした。

すく伝えようとする作者の熱意に溢れており、読み終えた後、「プログラミングって楽しそうだな。」と思っている自分がいた。また、『技術の前にモチベーションを高める』、『難しい内容はスルー』など、プログラミングに限らず勉強や仕事、そして趣味などにおける『学び方を学ぶ』ことができる本であった。本屋さんで偶然この本と出会ったことで、今までの『読まず嫌い』を反省し、この歳にして新たなジャンル本への興味が湧いてきたところである。

ウォルト・ディズニ―は、「本には多くの宝が眠っている。宝島の海賊たちが盗んだ財宝よりも本には多くの宝物が眠っている。そして、何よりも宝を毎日味わうことができる。」このように語っている。

さて、お宝を探しに図書館や本屋さんに出かけてみよう。きっと、人生を豊かにする本に出合えるに違いない。

読書感想画 作品展



「このぼりくんのさんぽ」
小一月 片山知希・小平健
徳政創史・水谷梨咲



「どんぐりころころ」
小六月 沖本千紗・木村彩里
高橋幸笑・山内美優



「なかよし」
中1A 富賀龍聖



「ぼくのおごも」
中2C 松浦正弥



「きるかにがっせん」
小三月 松浦孝太



「スイミー」
小五月 沖田聖翔・塩見蓮
増田煌大・東優月
松下晟風



「どうぶつえん」
中1D 大井勝太



「ぞうのエルマーを読んで」
中3B 有友柁矢



読書感想文



キヤクストン私設図書館を読んで

高等部 一年G組 中川 凜

ぼくがこの本を選んだ理由は最初に主人公の母が不審死するところから始まっていたからです。こんな始まり方の本は見たことがなかったのでびびりました。でも、そのおかげで脳にほどよい刺激が走り、一気に読んでしまいました。この本のあらすじは、ひよんなことから主人公が不思議なキヤクストン図書館を見つけたことから始まります。主人公は図書館の秘書と仲良くなりですが、ある事件によって引き裂かれてしまいます。しかし、あることをきっかけに仲直りし、主人公に秘書のバトンが渡されるという物語です。

ぼくには印象に残っているところが三つあります。一つ目は、キヤクストン図書館です。登場人物が「実体化」されて出てくるのはもちろんのこと、図書館の様子が分かりやすく説明されているので、あの独特なおみや本が並んでいるさまがすぐそこにあるように感じられました。

二つ目は、主人公が一冊の本の結末を書き換えたというところです。本の登場人物に主人公が惚れたので、本を書き換えてしまいました。ぼくは本が好きですが、絶対に本を書き換えたりしません。それは、本にきれいなままでいてほしいからです。

三つ目は、ケンカをした主人公と秘書が仲直りするところです。秘書はとても家に行き

づらかったと思います。仲を引き裂くほどのけんかの後に相手の家に行くなんて、勇気があつてすごいなと思いました。ぼくだったら、一カ月と三週間はほしいところです。無事に仲直りができ、主人公は秘書から鍵束を受け取りました。鍵を渡した瞬間に秘書は泣きま

した。秘書にとつて、主人公は秘書を継ぐ者だったので、鍵を受け取ってもらって嬉しくて泣いたのだと思います。主人公と秘書は、この後会うことはありませんでした。

ぼくの人生は物語のように紡がれていきます。誰も過去に戻ることはできません。だから、前を向いてしっかりと歩んでいこうと思います。時には止まってじっくり考えながら、自分のペースで物語を紡いでいきたいです。



『鬼滅の刃しあわせの花』を読んで

高等部 一年F組 松原 理恵

私がこの本の感想を書こうと思った理由は主人公の生き様がかっこよくて、家族愛あふれるところがとても良かったからです。自分本位ではなく、家族のことを優先して考えられるところがすごいなと思います。

この本では、主人公が妹に幸せになってほ

大切さを強く感じました。一見簡単そうに見えるけれど、自分よりも相手を優先することは難しいと思います。それができる主人公や妹は素敵です。私も、みんなに優しくできるように頑張りたいです。また、この本から家族愛を学んだので、これからも家族を大切にしていきたいです。



多分そいつ、今ごろパフェとか食ってるよ

高等部 三年G組 犬飼 智博

私がこの本を選んだ理由は、昨年テレビやネットで話題になり、とても有名な本だったからです。内容は、人間関係で辛くなった時や不安になった時に自分の考え方をどのように改善するかが、例え話を交えて書かれていました。

私は、いつも人の目を気にして不安になってしまいます。それに人の幸せや成功に嫉妬してしまい、心もややもやします。私は、筋肉がムキムキの人、リアル充の人、イケメンアイドル、頭がすごい人、金メダルをもらう人に嫉妬します。そして彼女がほしいとか、イケメンに生まれたらよかったと思ってしまいます。そして私が何か悪いことをしたのかと自分のせいにしてしまう性格です。この本は、『そんな気持ちになった時には、「その瞬間は映画のハイライトを見ているようなものだ。」と見方を変えるように。」と教えてくれました。この瞬間になるまで、その人



多読賞

本校では、「児童・生徒の読書意欲を高める」ことを目的として、毎年多読賞の表彰を行っています。一月末までに目標読書冊数に達した高等部(五十冊以上)一名、中学部(三十五冊以上)二名、小学部(二十冊以上)六名、計九名が表彰されました。

図書委員会の活動



私は図書委員長として昼休みの当番やお話をいたしました。クリスマスお話し会には、たくさんお話しに来てくれました。ありがとうございました。
3年C組 下石涼太

本校の図書委員会は、高等部一年生〜三年生で活動しています。主な活動は、月に一回の委員会とお話し会、週に一回の昼休みの図書の貸し出し当番などです。昼休みや、委員会時には図書の整理も行っています。毎月のお話し会では、図書委員が絵本のページを分担し、練習をして本番に臨んでいます。今年度は新型コロナウイルス感染症対策としてユーチューブ配信に挑戦しました。体育館で実施したクリスマスお話し会には、たくさんのお児童・生徒が聞きに来てくれて、うれしかったです。